

2学期の初め、そら組の子どもたちは夏休みに経験した祭りの話をしていました。担任は「自分たちが経験して楽しかったことを再現して遊んでほしい」「材料を選び工夫して作ってほしい」「友達と力を合わせて学級で祭りごっこを進めてほしい」と考えました。

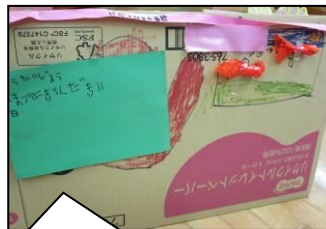
自分がしたいと思う店を言い合い、「一緒にしよう」と幼児同士で誘い合ったり、「一人でもできる」と進めたりしてきました。途中で「一人でできんかしれん。手伝ってほしい」と言う声が出たり「〇〇の材料が足りん」と家の人に呼び掛けたりしました。5歳児のアイデア、イメージしたものを実現させる工夫を見てください。



【綿菓子】割りばしに新聞をまき、花紙をまいて「〇〇味」をイメージし、綿を付けています。



【かき氷】いろいろな味を選ぶことができるようにメニューと食べたら返す「返却口」を作成。



【金魚すくい】看板ややり方を文字で表わしています。小さい組の人に分かるように作った金魚も貼っています。



【焼きそば】祭りで食べた焼きそばを再現。ニンジン、キャベツ、肉入り。



【フランクフルト】一人でもできると言っただけで休みが続き、「手伝って～」と助けを呼びました。割りばしに新聞をまく人、茶色の紙をまく人に分かれて2日で完成。



【ジュース】メニューとして書いたジュースの名前を切り、ジュースの場所と一致させました。カップの大きさを選ぶことができる仕組みを考えました。



【射的】鉄砲に見立てた筒を投げてペットボトルの的を倒す仕組。早くペットボトルを起すことができるように後ろ側にガムテープを貼っています。女の子用の景品はほし組が手伝いました。



【たこ焼き】作ることに時間がかかり、丸める工程ははな組に手伝ってもらいました。青のり、鰹節をのりにつけるとべたつき、スプレーのりを使うとうまくなりました。

学級活動で、また給食後はしたい人が取り組んだ2週間。振り返りの際「手伝って～」の声が出ると、次の日には、自分の店でなくても「何をしたらいい?」「手伝おうか?」と助け合う姿が見られました。また、3・4歳児だけでなく、1年生を招待し、自分たちの店に行列ができるうれしさを味わい、本物そっくりのお金をもらい満足感を味わいました。学校の先生方にも、今の5歳児の姿、身に付いている力を見ていただきました。どこの園でもしている店ごっこですが、子どもへの提案の仕方、出す材料、グループ分け等を検討し、子どもと一緒に取り組むことで意義ある遊び、そして学びにしていきたいと思ひます。

きりとせん

読まれた感想・ご意見などありましたら教えてください。園長だより7 ( )組 園児名( )